

キコニアレター

2023.12.1発行 No.34

コウノトリが東河地区に もたらしたもの（兵庫県朝来市）

豊岡にはほど近い朝来市の東河（とが）地区では「コウノトリ育む農法」での稲作が盛んに行われています。地元小学校でも、2017年には県のグリーンスクール表彰を受けるなど、以前から環境学習に力を入れてきています。コウノトリの飛来が頻繁にあるようになつた2019年、東河地区協議会が地域住民の募金をもとに二か所に巣塔を設置しました。

巣塔の設置と飛来

2019年11月、子ども達とみんなでペイントした巣塔を設置するとすぐにペアが巣作りを始め、これまで毎年ヒナが誕生しています。子ども達は、生まれてきたヒナたちに名前を付け、巣立ってからも地域全体で見守って来ています。遠くは沖縄県宮古島に飛んで行った個体（J0291♂愛称「清流」）もあり、島で観察されている方とリモートでの交流も行われています。ヒナたちが飛來した地域の観察者が当地を訪問され、交流することも行われています。コウノトリを通して自分たちの周りの自然に目を向け、あらためて自分たちの地域の自然の豊かさを再認識するきっかけになっています。

波乱の子育てからの学び

2021年4月には、子育て中の親鳥（J0160♂愛称「翼」）が突然交通事故で亡くなり、3羽のヒナはコウノトリの郷公園で里親に育てられるというとても悲しい出来事が起きました。その後、巣立ったヒナたちも感電死や病気で亡くなるケースも出て、子ども達もその都度大きなショックを受け、地域でもどう対処すれば良いのか悩むことも多々ありました。しかし、子ども達は現実をしっかりと受け止め、自分たちに何ができるのかみんなで真剣に考えて行動に移してくれています。宮古島にいる「清流」のくちばしに人が捨てたと思われるリングがはまつて何日も餌が捕れなくなってしまった時には、すぐさまみんなの願いや「心は一つ!!」と書かれた横断幕を作成し、現地に送って回復を祈ったり、再びこのような悲しい事故が起きないよう自主的に地域内のごみ拾いをはじめたりするなど、積極的に活動を広げています。コウノトリと深く関わるなかで、自然の厳しさをあらためて知らされる結果ともなりました。

今後の取り組み

朝来市でも、今後飛來する個体が増え、子育てるペアがこの地区以外でも見られる事を願っています。市と地域、そして学校が、情報を常に共有しながら、コウノトリが安心して住みやすい環境をみんなでつくり上げて行きたいと考えています。

コウノトリの個体数（2023.10.31 時点）

飼育					野外				
施設・拠点名	オス	メス	不明	計	カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	26	27	0	53	兵庫県放鳥	18	14	0	32
附属施設コウノトリ保護増殖センター	18	19	0	37	兵庫県野外巣立ち	85	99	0	184
養父市伊佐拠点	1	1	0	2	野生	0	1	0	1
計	45	47	0	92	他府県リリース	11	7	0	18
					他府県巣立ち等	73	72	0	145
					計	187	193	0	380



みんなで巣塔のペンキ塗り



願いを込めて風船を飛ばす子ども達



子ども達が贈った横断幕を見つめる「清流」
(宮古島にて)

コウノトリ野生復帰事業は新たなステージへ

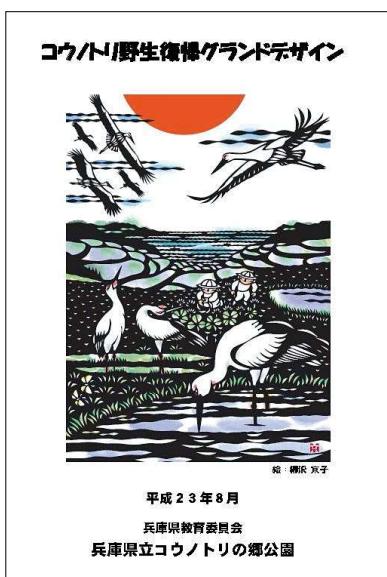
～2023年9月14日 定例記者会見より～

2005年の初放鳥以降、野外コウノトリは順調に増加し、今年、兵庫県内では但馬地域以外で2例目となる稻美町で初繁殖するなど繁殖地もさらに広がり、8月末現在では、383羽のコウノトリが日本の空を舞っています。

順調に数を伸ばす一方、コウノトリが事故に遭い救護及び死体回収を行うケースも増えてきています。2023年度は8月31日現在、全国で21羽が救護(巣立ち前のヒナ10羽を含む)され、14羽が死体収容(巣立ち前のヒナは除く)されています。救護や死体収容の原因として、防獣ネットや防鳥用テグスへの絡まり、鉄道事故、送電線への衝突など人為的な要因によるものが多く見られます。ある地域においてコウノトリが持続的・安定的に繁殖を続け、人とコウノトリが共存していくためには、これまで行われてきた「繁殖環境の整備(人工巣塔の設置、電線迂回などの電柱巣の安全対策など)」、「採餌環境の整備(環境保全型農業の拡大、湿地の再生など)」とともに、繁殖地周辺での「人工物による事故への対策」にも気を配る必要があります。

また、兵庫県外での救護や死体収容が多く発生しています。それらの多くの事例において、捕獲・応急処置・一時収容・死因究明のための解剖等について、当園が、地元自治体から相談を受け、地元自治体に対する助言や支援を行っています。コウノトリの繁殖地が全国に広がってきたことにともなって、各都道府県におけるコウノトリの救護や死因究明のための体制作りの必要性が高まってきています。

その他にも、遺伝的多様性の確保、豊かな餌場の創出など、継続して取り組むべき課題はたくさんあります。



このような現状を鑑み、「コウノトリ野生復帰グランドデザイン」の見直しに着手しています。平成23年8月に策定をしてから12年が経過し、これまでの取組について評価・検証とともに、鳥インフルエンザ対策(対応マニュアルの策定)やコウノトリ個体群に関する機関・施設間パネル(IPPM-OWS)の設立と運営について、負傷個体等の救護・野外解放についての解析などを追加していきます。また、現グランドデザインの短期目標・中期目標及び最終ゴールに照らし合わせて、新たな課題をまとめていきます。

人とコウノトリが共生していく持続可能な社会づくり・環境づくりを目指して、繁殖地の広がりと共に増えていく関係機関とも協力しながら歩んでいきたいと思います。



定例記者会見の様子（中央が久下隆史園長）



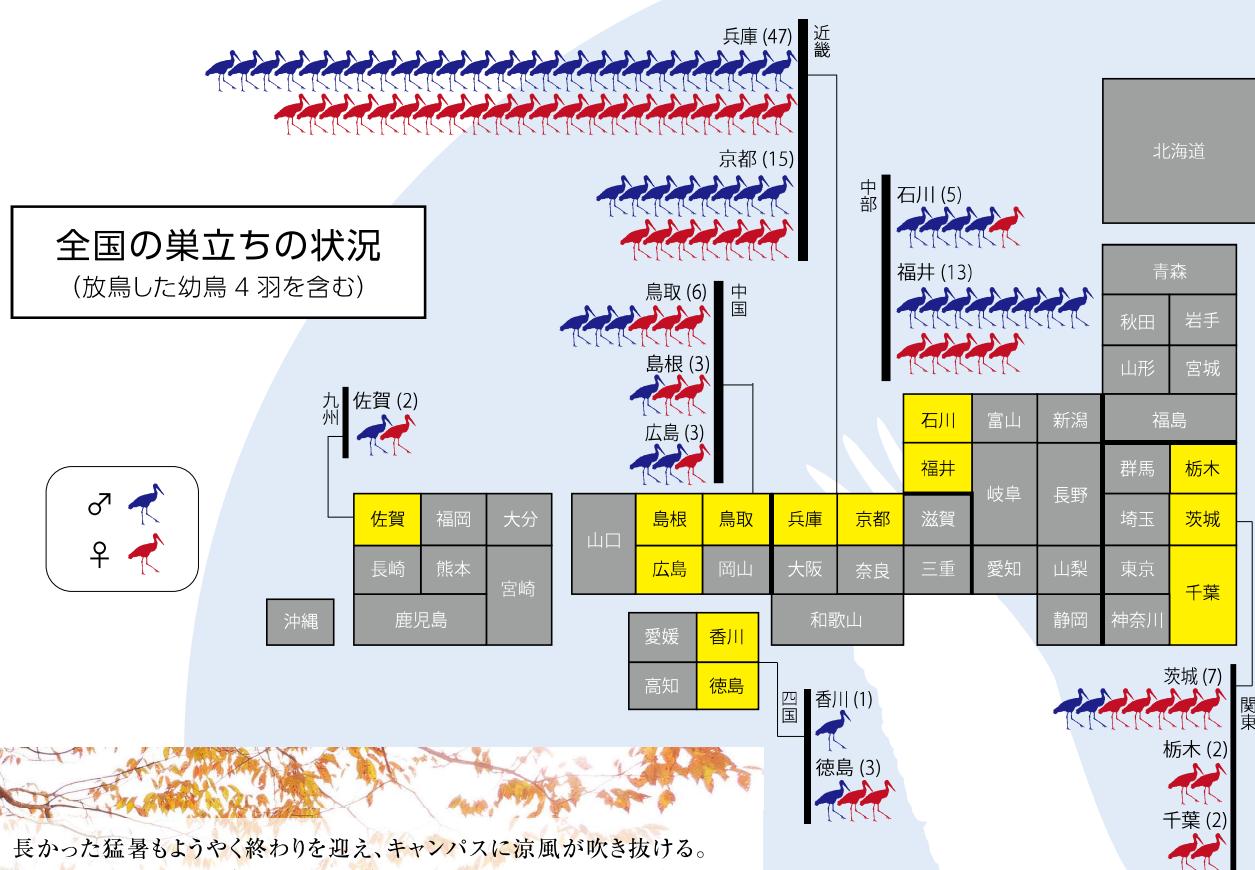
防獣ネットに絡まった個体の救護

～12府県49巣で繁殖・105羽の幼鳥が巣立ち～

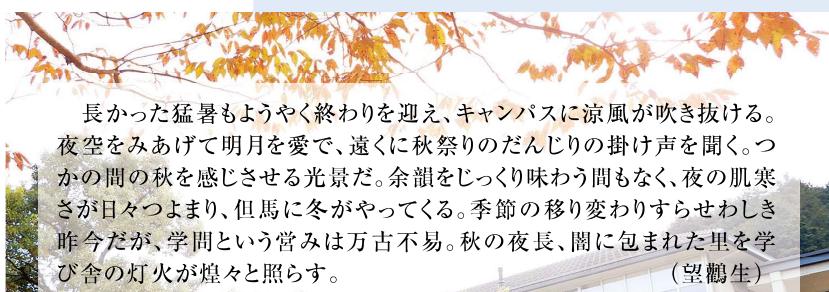
野外コウノトリの繁殖地は広がりを見せていました。今シーズンは新たに3県5巣（広島、香川、茨城）が加わり、全国12府県49巣で繁殖がありました。（兵庫県では稻美町で初繁殖を確認）

野外個体数は、巣立ちに伴う増加とその後の死亡や収容による減少を繰り返しながらその総数を増やしてきましたが、近年の巣立ち数の増加とともにその傾向はますます顕著となってきています。

一方、豊岡盆地では繁殖ペア数が既に頭打ちとなっており、野外個体数の増加は新たな繁殖地の増加によるところが大きいため、これらに期待しつつ今後もその動向に注視していきます。



長かった猛暑もようやく終わりを迎へ、キャンバスに涼風が吹き抜ける。夜空をみあげて明月を愛で、遠くに秋祭りのだんじりの掛け声を聞く。つゝの間の秋を感じさせる光景だ。余韻をじっくり味わう間もなく、夜の肌寒さが日々つよまり、但馬に冬がやってくる。季節の移り変わりすらせわしき。今だが、学問という営みは万古不易。秋の夜長、闇に包まれた里を学ぶ家の灯火が煌々と照らす。



INFORMATION

各種イベントを実施しました

『約束のケージ』特別ガイドウォーク 8/6(日)

コウノトリの保護増殖と野生復帰の原点である附属施設「コウノトリ保護増殖センター」を特別公開し、約束のケージ等の施設見学をはじめコウノトリの繁殖技術についても紹介しました。



砂の世界をのぞく展 8/11(金)~8/13(日)

山陰海岸ジオパーク内の砂や礫を展示し、顕微鏡観察や鳴き砂体験などにより、地質の違いを体感していただきました。今回も「砂絵コーナー」を設け、大人から幼児まで思い思いの作品づくりを楽しんでいただきました。



飼育コウノトリへの給餌体験

6/10(土)・7/16(日)・9/9(土)

飼育コウノトリの餌づくりや実際にケージに入っての餌やりを体験していただきました。毎回多くの皆様にご参加いただき、コウノトリ飼育への理解を深めていただくとともに、間近でその様子を観察できたと大変ご好評をいただきました。



非公開エリア特別ガイドウォーク 5/4(木)・7/2(日)・9/24(日)

普段は立ち入ることのできない非公開の飼育ゾーンを、飼育員が各施設の特徴、コウノトリの生態や世話などについてお話ししながら案内しました。繁殖ケージでは、目の前でコウノトリの給餌の様子をご覧いただきました。



兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科 令和6年度学生募集

地域資源マネジメント研究科は、コウノトリの研究などの生態学（エコ）、地球科学（ジオ）、人文社会科学（ソシオ）の3つの分野を学ぶことが出来る大学院です。（社会人のための長期履修制度もあります。）

C日程 試験日：2024年3月3日(日)

願書受付：2月7日(水)～20日(火)

問い合わせ

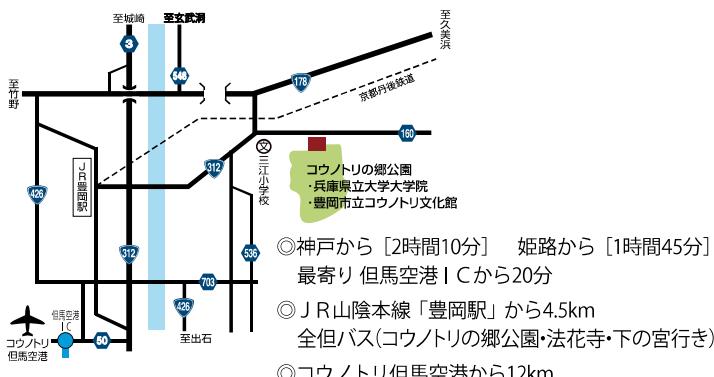
兵庫県立大学豊岡ジオ・コウノトリキャンパス

TEL：0796-34-6079（学務課）

詳細はホームページをご覧ください。<https://www.u-hyogo.ac.jp/rrm/>



ACCESS!



- ◎神戸から [2時間10分] 姫路から [1時間45分]
最寄り 但馬空港 ICから20分
- ◎JR山陰本線「豊岡駅」から4.5km
全但バス(コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き)
◎コウノトリ但馬空港から12km

編集後記

本号では今シーズンの繁殖状況についてもお伝えしました。各地から届く便りの中で、今年巣立った個体を示す黒い足環、番号600番台の目撃情報が増えています。この時期、兵庫県南部のため池等に、数十羽ものコウノトリが集まっているということも珍しくありません。そこには豊岡由来の若鳥たちも含まれており、このように多くのコウノトリたちが群れを成す様子は、実は豊岡周辺ではまず目にすることのできない光景です。郷公園前の祥雲寺巣塔から巣立った3羽(J0633・J0634・J0635)も、当初は近くの水田で仲良くエサ取りをする姿が見られましたが、今や親鳥の元を離れそれが新天地へと旅立っています。皆がどうか逞しく成長し自然界を生き抜いて、その命を次の世代へと繋いでいくことを願うばかりです。(なお、今シーズン巣立ちした個体のすべてが黒い足環を装着しているものではありません。)

(自然解説員 白岩雅之)



兵庫県立コウノトリの郷公園

Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺128 tel : 0796-23-5666 fax : 0796-23-6538

開園時間：9:00～17:00

休園日：毎週月曜日

(休日に当たるときはその翌日) e-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ : <https://satokouen.jp/>

(休日に当たるときはその翌日) facebookページ : <https://www.facebook.com/satokouen/>

インスタグラム : https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/



HP

FB

Instagram